

「私たちの前に置かれている競走を忍耐をもって走り続けよう」

ヘブル 12 : 1-2a

皆さん、おはようございます。今日、ここで皆さんにお会いできて光栄です。ほとんどの方は私のことをご存知だと思いますが、ご存じでない方もおられると思いますので、短く自己紹介をします。私は、米国出身のブラッド・ハウディシエルと申します。OIC の教会家族の一員になってかれこれ 26-27 年です。一年半ほど前、アリストア牧師から初めて日曜礼拝の説教をするよう依頼されました。この講壇からメッセージを語るのは今日で 5 回目です。前回の説教から、私の好きな聖書箇所を取り上げるシリーズを始めました。今日は、ヘブル人への手紙 12 章の冒頭とその前後についてお話しします。では、ヘブル人への手紙 12 : 1-2a を読みましょう。

ヘブル 12 : 1-2a

12:1 こういうわけで、このように多くの証人たちが、雲のように私たちを取り巻いているのですから、私たちも、いっさいの重荷とまつわりつく罪とを捨てて、私たちの前に置かれている競走を忍耐をもって走り続けようではありませんか。

12:2 信仰の創始者であり、完成者であるイエスから目を離さないでいなさい。

前回の説教で、私は基督教のメッセージがわかりやすくコンパクトにまとまっているのが好きだとお話しました。今日の箇所にも、クリスチャン人生をどのように生きるべきかというテーマについて基本的な特徴がいくつか示されています。この箇所ですべて使われているおもに 3 つの動詞にご注目ください。これを、「3 つの主要なおきて」と呼ぶことにします。ただし、3 つめは英語では「～しなさい」という命令形では記されていません。とは言え、この 3 つめも、ひとつめとふたつめの命令に従う中で取るべき行動です。その 3 つは以下のとおりです。

1. 捨てる
2. 走る
3. 目を離さない

さて、ここから皆さんにもご参加いただきましょう。1 節には、捨てるべきものがふたつ記されています。ひとつめは何でしょうか。どなたかお答えいただけますか。

ひとつめは「いっさいの重荷」です。英語の欽定訳には、「すべてのおもしをわきにおいて」とあります。私たちを圧迫し、邪魔をするすべてのもの、という意味です。

では、捨てるべきふたつめのものは何でしょう。

「罪」です。

このふたつの違いは何でしょう。罪が何であるかは皆さんご存知でしょう。ギリシャ語では、「ハマルティア」で、「的を外す」という意味です。神の義なる基準に達しないことです。罪の例を挙げるなら、盗み、殺し、姦淫、うそ、偽りの神を信じる、等、たくさんあります。人は誰でも罪と葛藤します。そして、罪を捨てるように招かれています。それは、悔い改めて（心を変えて）罪に背を向けることです。

### ローマ 3 : 23

3:23 すべての人は、罪を犯したので、神からの栄誉を受けることができず、

### ヨハネ第一 1 : 9

1:9 もし、私たちが自分の罪を言い表すなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます。

イエスは、姦淫の現場を捕まえられた女に言われました。

### ヨハネ 8 : 11b

「…行きなさい。今からは決して罪を犯してはなりません。」  
「今からは決して罪を犯してはなりません。」今、私たちは赦されています。今、私たちは日々生きる中で、罪を捨て、罪に背を向けるべきです。

けれども、それは難しいことです。このような罪は、私たちに「まつわりつく」からです。そう、まわりついてくるのです。けれども、罪がこっそり近づいてきても、あきらめないでください。逃げる道はあります。罪を犯させようという誘惑から逃れる道は確かにあるのです。

私の好きな聖書個所のひとつは、コリント第一 10 : 13 です。このみことばに私は大いに助けられています。

### コリント第一 10 : 13

10:13 あなたがたの会った試練はみな人の知らないものではありません。神は真実な方ですから、あなたがたを、耐えられないほどの試練に合わせることはなさいません。むしろ、耐えられるように、試練とともに脱出の道も備えてくださいます。

ここでパウロが言っていることがおわかりでしょうか。誘惑は一般的なのです。今あなたが直面している誘惑や試練も、珍しいものではありません。あらゆる状況であなたが直面することは、他に例のないことではありません。普通のことです。他の人も経験済みです。ですから、誘惑に立ち向かおうとするとき、あなたはひとりではありません。

また、私たちの真実な神は何をしてくださるでしょうか。この個所には、「あなたがたを、耐えられないほどの試練に合わせることはなさいません。」とあります。「あなたがたを、耐えられないほどの試練に合わせることはなさいません。」強い誘惑で、もう誘惑に負けて罪を犯すしかないと思えるときでも、そうならない選択肢があります。

私は若かった時、このみことばをしっかりと握りしめ、このように信じていました。私がどんな誘惑に遭っても、それは、耐えられないものではない。あの誘惑も、この誘惑も、耐えられないものではない。誘惑に負けて罪を犯す必要は決してない。避けられないことではない、と。

若い人たちは、特に聞いてください。年配の方々も聞いてください。今あなたが直面している誘惑は、拒み切れないほどのものだと思っているのでしょうか。でも、違います。神は常に、逃れる道を備えてくださいます。神は、あなたとともにおられます。

### ヨハネ第一 4 : 4

4:4 子どもたちよ。あなたがたは神から出た者です。そして彼らに勝ったのです。あなたがたのうちにおられる方が、この世のうちにいる、あの者よりも力があるからです。

「あなたがたのうちにおられる方」とは、聖霊のことです。そして、「この世のうちにいる、あの者」とはサタンのことです。私たちの内には聖霊が住んでおられます。聖霊の力によって、私たちはどんなことも乗り越えられます。

私は 20 代だったころ、この約束を握って固く立ちました。誘惑から逃れる道が必ずあり、誘惑から離れることができます。聖霊の助けによって、そうする力が与えられます。

それで私は、誘惑から離れる習慣を身に着けました。立ち去るのです。ヘブル 12 : 1 は、「まつわりつく罪とを捨てて」と語ります。

さて、これは捨てるべきもののふたつめでした。

ひとつめは、「いっさいの重荷」です。私たちが圧迫し、邪魔をするすべてのものです。それはいったい何でしょう。「罪」を別の言い方で表現しているだけでしょうか。罪ももちろん、私たちが圧迫し、邪魔します。このふたつは同じことを指していて、両方とも罪のことだと解説する聖書注解者もいます。けれども、このふたつを区別する聖書注解者もいます。私自身も、ふたつは別のものとして、この個所を理解してきました。

「いっさいの重荷」を捨てるのです。クリスチャンとしての人生を生きるという競走を走っていく邪魔となり、私たちが圧迫するすべてのものです。

「重荷」とは何でしょう。そのこと自体は罪ではないけれども、私たちのクリスチャンとしての歩みの足を引っ張るような事柄を指していると私は考えます。一見無害なようでも、全速力で走っているべきときに、足かせとなって邪魔をするような物事です。

どんな行為がそれにあたるでしょう。ここで具体例は挙げないでおきましょう。歩みの妨げになる行為は、人によって違うからです。私の場合、テレビの見過ぎが一例です。特に、アクション映画とドキュメンタリーが好きで、中でも歴史や科学のドキュメンタリーが好きです。テレビが悪だと言っているのではありません。仕事を終えてしばらくリラックスするために映画やドキュメンタリーを観るのは悪いことではありません。けれども、私の場合はテレビを見る習慣で時間を無駄にしていると感じていました。時間の浪費。これは、「重荷」の一例です。クリスチャンとしての競走を走るのに不必要な足かせであり、無駄です。

ここで、「重荷」つまり邪魔について他の人の意見をご紹介します。20世紀の偉大な説教者 A.W. トーザーは次のように語りました。

邪魔とは、本質的には罪ではない。霊的なクリスチャンと並のクリスチャンの違いは、本当に霊的なクリスチャンは、罪から救いだされたという確信だけでなく、勝利を妨げるいっさいのものから救いだされたという確信を得ている。私たちは、妨害のない解放された競走を走らなくてはならない。

A.W. トーザーは、問題の本質を突いています。「重荷」は勝利を妨げるいっさいのものであるとしています。勝利が目標です。そして、私たちは妨害のない解放された競走を走るのです。邪魔をするものは何でしょう。私自身の場合については一例を挙げましたが、トーザー師はひとつも具体例を挙げず、次のように述べています。

具体例は挙げるべきではない。決まった法則がないからである。クリスチャンはひとりとして同じではない。それぞれ違うので、ひとりの人にとって楽しく邪魔になるものが、別の人にはまったく邪魔にならない。法則は次のとおりである。妨げとなるものは、負ける原因を作るものだ。負けるくらいなら、それらのものを私は捨てる。誰でも、心に秘めた秘密を自分で知っている。そのことで悩むなら、それを捨ててしまいなさい。悩んで時間を無駄にしてはいけない。人生の競走で勝つのを妨げるものなら、それをあきらめるのがはるかによいからである。

では、最初に挙げた3つのおきてに戻りましょう。

1. いっさいの重荷とまつわりつく罪とを捨てる
2. 私たちの前に置かれている競走を忍耐をもって走る

「私たちの前に置かれている競走」この個所では、クリスチャン人生が競走にたとえられています。これは、人生を走り抜けるようにすべてを速くこなさなければならないという意味ではありません。

ません。そうではなく、クリスチャンの生き方は、自制と目標を持つ必要があるということです。ゴールをしっかり見据えて、神が私たちに望まれることをなそうと励むのです。

使徒パウロはコリント第一 9 : 24 で次のように語ります。

#### コリント第一 9 : 24

9:24 競技場で走る人たちは、みな走っても、賞を受けるのはただひとりだ、ということを知っているでしょう。ですから、あなたがたも、賞を受けられるように走りなさい。

「賞を受けられる」とはどういう意味でしょう。救いを勝ち取るという意味ではありません。私たちの行いによって救いを勝ち取ろうとしているではありません。私たちの救いはすでに、キリストを信じる信仰によって確かなものとされています。

「賞を受けられる」とは、神が私たちに与えてくださった務めを果たすということだと思えます。その務めはひとりひとり違います。私たちが競争を走るとき、他のクリスチャンと競っているではありません。ひとりひとりが競走します。そして、ひとりひとりが、務めを果たせたなら、賞を受けられるのです。

パウロは、使徒 20 : 24 で言いました。

#### 使徒 20 : 24

20:24 けれども、私が自分の走るべき行程を走り尽くし、主イエスから受けた、神の恵みの福音をあかしする任務を果たし終えることができるなら、私のいのちは少しも惜しいとは思いません。

パウロは、自分の走るべき工程を走り尽くし、イエスから与えられた働きを成し遂げ、福音をあかしすることだけが関心事だと言いました。私たちにはそれぞれ違った召しがあります。私たちが専念して成し遂げるべき働きはそれぞれ違います。大小それぞれです。また、私たちには、周囲に伝えるべき証があります。

#### コリント第一 12 : 27

12:27 あなたがたはキリストのからだであって、ひとりひとは各器官なのです。

#### コリント第一 12 : 4-7

12:4 さて、賜物にはいろいろの種類がありますが、御霊は同じ御霊です。

12:5 奉仕にはいろいろの種類がありますが、主は同じ主です。

12:6 働きにはいろいろの種類がありますが、神はすべての人の中ですべての働きをなさる同じ神です。

12:7 しかし、みな益となるために、おのおのに御霊の現れが与えられているのです。

#### コリント第一 12 : 11

12:11 しかし、同一の御霊がこれらすべてのことをなさるのであって、みこころのままに、おのおのにそれぞれの賜物を分け与えてくださるのです。

私たちはキリストのからだであり、ひとりひとは、そのからだの大切な一部です。聖霊がそれぞれ違った賜物と働きと活動を与え、各人を力づけてくださいます。OIC のひとりひとりが務めを果たせるように、力を与えてくださいます。その務めは、ここ OIC というひとつの教会と世界に広がる大教会との両方にとっての益となります。

#### エペソ 4 : 11-12

4:11 こうして、キリストご自身が、ある人を使徒、ある人を預言者、ある人を伝道者、ある人を牧師また教師として、お立てになったのです。

4:12 それは、聖徒たちを整えて奉仕の働きをさせ、キリストのからだを建て上げるためであり、

パウロは晩年、テモテ第二 4 : 7-8 で次のように語りました。

#### テモテ第二 4 : 7-8

4:7 私は勇敢に戦い、走るべき道のりを走り終え、信仰を守り通しました。

4:8 今からは、義の栄冠が私のために用意されているだけです。かの日には、正しい審判者である主が、それを私に授けてくださるのです。私だけでなく、主の現れを慕っている者には、だれにでも授けてくださるのです。

パウロは、将来の「かの日」、つまり、信徒のさばきの日に、自分のために用意された報いをいただけるとうわかっていました。それは、義の栄冠です。この冠は、忠実に、キリストの再臨を待ち望む私たち一人一人にも用意されています。

これが、忠実なクリスチャン全員が受ける基本的な報いです。けれども、新約聖書には、それぞれに与えられた責務をどう果たしたかによって、違ったレベルの報いを受けると示唆する個所もあります。

コリント第一 3 章で、パウロはコリントの教会開拓について、そして自分と同労者アポロについて語ります。

#### コリント第一 3 : 6-8

3:6 私が植えて、アポロが水を注ぎました。しかし、成長させたのは神です。

3:7 それで、たいせつなのは、植える者でも水を注ぐ者でもありません。成長させてくださる神なのです。

3:8 植える者と水を注ぐ者は、一つですが、それぞれ自分自身の働きに従って自分自身の報酬を受けるのです。

この個所から、さばきの日に受ける報いに違いがあることがわかります。8 節には、「それぞれ自分自身の働きに従って自分自身の報酬を受けるのです。」とあります。改めて言いますが、これは救いを勝ち取ることではありません。それはすでに解決済みです。ここに記された未来にいただける報酬とは、私たちがクリスチャン人生をどのように生きたかに応じていただけるものです。

#### コリント第一 3 : 10

3:10 与えられた神の恵みによって、私は賢い建築家のように、土台を据えました。そして、ほかの人がその上に家を建てています。しかし、どのように建てるかについてはそれぞれが注意しなければなりません。

「どのように建てるかについてはそれぞれが注意しなければなりません。」今日ここに集っている兄弟姉妹の皆さんにお勧めします。どうか、ご自身のクリスチャン人生の土台の上に何をどのように築くか、注意してください。そして、世界に広がる大教会と OIC というひとつの教会との土台の上に何をどのように築くか、注意してください。与えられた務めが大きくても小さくても、忠実に最後まで成し遂げましょう。

ステージ上であっても、日曜学校の教室でも、病院訪問でも、りっぱなクリスチャンかつ市民として子どもを育てていても、先ほど挙げた罪や重荷に邪魔されず、たるまずに、まい進しましょう。

#### コリント第一 3 : 11-15

3:11 というのは、だれも、すでに据えられている土台のほかに、ほかの物を据えることはできないからです。その土台とはイエス・キリストです。

3:12 もし、だれかがこの土台の上に、金、銀、宝石、木、草、わらなどで建てるなら、

3:13 各人の働きは明瞭になります。その日がそれを明らかにするのです。というのは、その日は火とともに現れ、この火がその力で各人の働きの真価をためすからです。

3:14 もしだれかの建てた建物が残れば、その人は報いを受けます。

3:15 もしだれかの建てた建物が焼ければ、その人は損害を受けますが、自分自身は、火の中をくぐるようにして助かります。

私たちがキリスト教の土台の上に何かを建てる時、あらゆる材料を用います。その材料は、ふたつの種類に分けられます。金、銀、宝石を使って建てられる一方、木、草、わらなどで建てることもできます。つまり、役に立つものと役に立たないものです。兄弟姉妹の皆さん、役に立たない働きに一生懸命になっていませんか。さばきの日に火の中を通されれば、木、草、わらは一瞬にして燃えてなくなります。何の価値もなくなるということです。15節によると、その人はそれでもキリストを信じている限り救われますが、大損害を被ります。獲得しようと頑張って走っていた賞を得られません。それは負けです。教会の損害にもなります。どうか、皆さんの競走がそんな結末にならないようにしてください。金、銀、宝石を使って建てましょう。聖霊に力をいただいて、役立つ働きをしましょう。

最初に、3つの動詞を挙げました。私たちがすべき3つの主な行為です。重荷と罪とを捨てて、競走を走り続け、そして3つめは、「信仰の創始者であり、完成者であるイエスから目を離さない」でいることです。主をしっかりと見つめましょう。気を散らすものを取り除きましょう。イエスから目を離さなければ、競走で勝利するのに役立ちます。これは、私たちにとっても、キリストにとっても、教会にとっても益となります。

では次に、少し戻ってヘブル12:1の冒頭を見てみましょう。

「こういうわけで、このように多くの証人たちが、雲のように私たちを取り巻いているのですから、」

「多くの証人たち」とは誰のことでしょう。そして、「雲のように私たちを取り巻いている」というのは何をしているのでしょうか。この箇所は、私たちが競走を走っているというたとえですから、この「多くの証人たち」を競技場で応援する観覧者のような存在だとよく言われます。そして、クリスチャンとしての人生を生き抜くクリスチャンが走者です。けれども、その解釈は正しくないといふ多くの聖書注解者が指摘します。「多くの証人たち」は私たちに応援しているのではありません。彼らは、信仰者としての人生がどういうものか証しているのです。彼ら自身の証をもって、私たちに励ましています。それは、彼らがすでに走り、勝利を得たので、競走を走りぬく価値があることを私たちに知らせるためです。

「こういうわけで」という言葉に気づきましたか。昔、聞いたことのある言葉を皆さんに紹介します。これは、おもしろい表現ですが、聖書の学びのひとつの原則です。

「こういうわけで、という言葉が出てきたら、どういうわけかを見つけよう。」

そこにその言葉がある理由は何でしょう。その言葉の後に続く箇所は、その前の箇所から続いているということです。ですから、その前の箇所を読んで、今日の箇所、ヘブル12章にどうつながっているか知る必要があります。今日の場合は、ヘブル11章を読むべきです。

聖書をよくわかっている人は、ヘブル11章が「信仰の殿堂」などと呼ばれることをご存知でしょう。スポーツやアートの世界で、功績を残した偉大なアスリートやアーティストをたたえる「～の殿堂」というものがあります。ヘブル11章は、「信仰の殿堂」と呼ばれ、旧約聖書に登場する偉大な信仰者の名まえが挙げられています。11章をざっと読んで、そこに出てくる人たちの名まえをすべて見ていきましょう。

#### ヘブル 11:1-2

11:1 信仰は望んでいる事がらを保証し、目に見えないものを確信させるものです。

11:2 昔の人々はこの信仰によって称賛されました。

#### ヘブル 11:4-5

11:4 信仰によって、アベルはカインよりもすぐれたいけにえを神にささげ、そのいけにえによって彼が義人であることの証明を得ました。神が、彼のささげ物を良いささげ物だとあかししてくださったからです。彼は死にましたが、その信仰によって、今もなお語っています。

11:5 信仰によって、エノクは死を見ることのないように移されました。神に移されて、見えなくなりました。移される前に、彼は神に喜ばれていることが、あかしされていました。

#### ヘブル 11:7-11

11:7 信仰によって、ノアは、まだ見ていない事らについて神から警告を受けたとき、恐れかしこんで、その家族の救いのために箱舟を造り、その箱舟によって、世の罪を定め、信仰による義を相続する者となりました。

11:8 信仰によって、アブラハムは、相続財産として受け取るべき地に出て行けとの召しを受けたとき、これに従い、どこに行くのかを知らないで、出て行きました。

11:9 信仰によって、彼は約束された地に他国人のようにして住み、同じ約束とともに相続するイサクやヤコブとともに天幕生活をしました。

11:10 彼は、堅い基礎の上に建てられた都を待ち望んでいたからです。その都を設計し建設されたのは神です。

11:11 信仰によって、サラも、すでにその年を過ぎた身であるのに、子を宿す力を与えられました。彼女は約束してくださった方を真実な方と考えたからです。

#### ヘブル 11 : 13

11:13 これらの人々はみな、信仰の人々として死にました。約束のものを手に入れることはありませんでしたが、はるかにそれを見て喜び迎え、地上では旅人であり寄留者であることを告白していたのです。

#### ヘブル 11 : 20-26

11:20 信仰によって、イサクは未来のことについて、ヤコブとエサウを祝福しました。

11:21 信仰によって、ヤコブは死ぬとき、ヨセフの子どもたちをひとりひとり祝福し、また自分の杖のかしらに寄りかかって礼拝しました。

11:22 信仰によって、ヨセフは臨終のとき、イスラエルの子孫の脱出を語り、自分の骨について指図しました。

11:23 信仰によって、モーセは生まれてから、両親によって三か月の間隠されていました。彼らはその子の美しいのを見たからです。彼らは王の命令をも恐れませんでした。

11:24 信仰によって、モーセは成人したとき、パロの娘の子と呼ばれることを拒み、

11:25 はかない罪の楽しみを受けるよりは、むしろ神の民とともに苦しむことを選び取りました。

11:26 彼は、キリストのゆえに受けるそしりを、エジプトの宝にまさる大きな富と思いました。彼は報いとして与えられるものから目を離さなかったのです。

#### ヘブル 11 : 29-35

11:29 信仰によって、彼らは、かわいた陸地に行くのと同様に紅海を渡りました。エジプト人は、同じようにしようとしたのですが、のみこまれてしまいました。

11:30 信仰によって、人々が七日の間エリコの城の周囲を回ると、その城壁はくずれ落ちました。

11:31 信仰によって、遊女ラハブは、偵察に来た人たちを穏やかに受け入れたので、不従順な人たちといっしょに滅びることを免れました。

11:32 これ以上、何を言いましょうか。もし、ギデオン、バラク、サムソン、エフタ、またダビデ、サムエル、預言者たちについても話すならば、時間が足りないでしょう。

11:33 彼らは、信仰によって、国々を征服し、正しいことを行い、約束のものを得、獅子の口をふさぎ、

11:34 火の勢いを消し、剣の刃をのがれ、弱い者なのに強くされ、戦いの勇士となり、他国の陣営を陥れました。

11:35 女たちは、死んだ者をよみがえらせていただきました。またほかの人たちは、さらにすぐれたよみがえりを得るために、釈放されることを願わないで拷問を受けました。

#### ヘブル 11 : 37-38a

11:37 また、石で打たれ、試みを受け、のこぎりで引かれ、剣で切り殺され、羊ややぎの皮を着て歩き回り、乏しくなり、悩まされ、苦しめられ、

11:38a——この世は彼らにふさわしい所ではありませんでした

38 節前半「この世は彼らにふさわしい所ではありませんでした。」たくさんの人が挙げられていましたが、これでも旧約聖書の忠実な聖徒の一部にすぎません。それぞれの人が、それぞれの状

況とそれぞれの召しを神からいただきました。そして、それぞれ違った人生の終焉を迎えました。迫害や損失を受けた人もいれば、素晴らしいかたちで救出され、長生きした人もいます。先ほど、多くの証人たちが自らの証によって、走り続けるよう私たちを励ましてくれましたと言いました。それは、彼ら自身がすでに走り、勝利を得たからです。殉教して若くで死んでしまった人生も、神の召しに忠実で、キリストの証をしていたのなら、勝利です。

私は、なぜ同じクリスチャンでも迫害や自然災害、殉教などで苦しむ人がいる一方で、豊かな人生、祝福された働き、危機的な状況からの素晴らしい救出体験という恵みに与る人がいるのだろうかと考えたことが何度もあります。その違いは何でしょう。神のお考えについて意見することはできませんし、神の子どもたちがまったく正反対の体験をするのをなぜ神がお許しになるのかわかりません。けれども、キリスト教の歴史は、ヘブル 11 章に登場する旧約聖書の聖徒たちのリストに見られることと相似しています。そして気づいたのは、厳しい困難に見舞われても、順風満帆な人生でも、その状況にどう対処するかがクリスチャンとしての証に大きく関係しているということです。過酷な状況で忠実でいつづけるなら、神に栄光をもたらします。また、神によって与えられた豊かな恵みを惜しみなく分かち合うことも、神に栄光をもたらします。一方、神の召しに忠実でありつづけなかったクリスチャンはどうでしょう。たとえば、順風満帆な人生でも、それを役に立たないことを追い求めて自由気ままに生きることに浪費してしまったら。または、つらいことが起こって、信仰を否定してしまったら。そのような場合は、その状況が、競走に負けたことを示しています。ちゃんと救われたクリスチャンであっても、神からの祝福を無駄遣いするなら、悲しい結末になります。そのようにどうかならないでください。ここで少し、個人的なお話をさせてください。私も、つらい経験をしたことがあります。最悪の状況とまでは言えませんが、苦悩していたことは確かです。キリストとの歩みをやめようかとも考えました。けれども、しばらく自分のことを振り返って、神の御国以上に行きたい場所はないことに気づきました。

ヘブル 11 章の「信仰の殿堂」は、クリスチャン人生という競走でもっとも大切なのが、どんな状況でも忠実であるという証を保つことだと教えてくれます。

「多くの証人たちは、彼ら自身の信仰の証をもって私たちを励ましてくれます。それは、彼らが信仰によって、力強い業をなし、大きな課題に取り組んだからです。彼らは、信仰の人生を生きる価値があると証してくれます。それは、地上の命以上のほうびである究極の報いを待ち望む人生だからです。

私たちはこのように、私たちの前に置かれている競走を走り続けます。そして、どんな状況におかれても、勝つことができるのです。

11 章の最後に興味深い言葉があります。信仰の英雄たちについて、39-40 節は次のように語ります。

#### ヘブル 11 : 39-40

11:39 この人々はみな、その信仰によってあかしされましたが、約束されたものは得ませんでした。

11:40 神は私たちのために、さらにすぐれたものをあらかじめ用意しておられたので、彼らが私たちと別に全うされるということはなかったのです。

「彼らは、約束されたものは得ませんでした。」

#### ヘブル 11 : 13

11:13 これらの人々はみな、信仰の人々として死にました。約束のものを手に入れることはありませんでしたが、はるかにそれを見て喜び迎え、地上では旅人であり寄留者であることを告白していたのです。

#### ヘブル 11 : 16a

11:16 しかし、事実、彼らは、さらにすぐれた故郷、すなわち天の故郷にあこがれていたのです。

彼らの報いは天にあります。それは、私たちと同じです。

#### ヘブル 11：39-40

11:39 この人々はみな、その信仰によってあかしされましたが、約束されたものは得ませんでした。

11:40 神は私たちのために、さらにすぐれたものをあらかじめ用意しておられたので、彼らが私たちと別に全うされるということはなかったのです。

この40節はどういう意味でしょう。

これは、旧約聖書の聖徒たちがしたように、私たちが信仰の人生を生きるという証を続けていくということだと私は受け取りました。彼らの証（地上におけるキリストの働きを完成させる彼らの務め）は、私たちの働きがそこに加えられるまで完成されません。私たちの働きもまた、聖徒たちの人生と働きの上に建てられています。こうしてともに、私たちと聖徒たちは完成されます。そして、理由はわからなくても、神のご計画の成就の中に私たちも組み入れられるまで、彼らの働きも完成しないことが、私たちにとって益となるのです。神の偉大なご計画の中の現代という時代で、信仰の人生を生き、与えられた役割を果たすように、多くの証人たちが私たちを励ましてくれます。

けれども、ゴールを見据えて、罪と邪魔になるものすべてを捨てなくてはなりません。賞を得られるように走らなくてはなりません。キリストの教会でなすべく与えられた自分の召しに忠実でいなくてはなりません。たるんでいると、負けます。そうすれば、教会の損失になります。兄弟姉妹の皆さん、勝者になってください。忍耐をもって走り、神の御国のために自分の役割を果たしてください。

今日皆さんと分かち合いたかったのはこのことです。ありがとうございます。  
神さまが皆さんを祝福してくださいますように。勝者になってください。